

ニホンジカの消失における脊椎動物の役割の評価

稲垣亜希乃（東京農工大）・丸山哲也（栃木県林業センター）・山崎晃司（東京農大）・
小池伸介（東京農工大）

キーワード：ニホンジカ遺体、分解、スカベンジャー

はじめに

脊椎動物死体の分解に関わる脊椎動物をスカベンジャーといい、脊椎動物死体の分解・消失において主要な役割を果たす。日本には脊椎動物死体の採食に特化した、あるいは大型脊椎動物の捕食者としての役割も担うスカベンジャーが存在しないことから、大型脊椎動物死体の消失過程において海外とは異なった特有のスカベンジャー群集や種間関係が存在する可能性がある。そこで本研究では、日本の森林生態系でのシカ死体―スカベンジャー群集関係の季節変化とそれに及ぼす要因を明らかにすることを目的とした。

方法

調査は北関東の森林内にて、センサーカメラを用いてシカ死体を訪問したスカベンジャー各種の採食を記録した。

結果および考察

夏季 9 個体、秋季 11 個体の合計 20 個体のシカ遺体を 16 地点に設置し、合計 99 時間の動画を撮影した。その結果、スカベンジャー種として、中・大型哺乳類で 6 種(ツキノワグマ(以下、クマ)、イノシシ、キツネ、タヌキ、ハクビシン、テン)、鳥類で 3 種(クマタカ、トビ、カラス属)の合計 9 種が確認された。特にツキノワグマとタヌキによる支配的なスカベンジャー群集構造が存在した。また、夏季に比べ秋季ではシカ死体の消失期間は長く、タヌキの採食時間も秋季は夏季よりも増加した。しかし、ツキノワグマの採食時間は両季節では違いがなく、秋季の堅果飽食がシカ死体の利用を減少させたと考えられる。さらに種間関係では、ツキノワグマのシカ死体への訪問は、タヌキの採食時間に対して夏季では負の影響、秋季では正の影響を与えていた。以上からシカ死体の消失期間の季節変化だけでなく、相対的に上位スカベンジャー種であるツキノワグマの採食行動の季節変化も各種の採食行動に影響した可能性が考えられる。